

**【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動支援】**  
**奈良市立富雄公民館におけるワークショップ 活動報告書**

国語教育専修 3 回生 川田 大登

1. **実施日** 2022 年 8 月 6 日 (土)
2. **場所** 奈良市立富雄公民館
3. **参加者** 教育学専修 3 回生 木下 結等、1 回生 宮木 舞  
国語教育専修 3 回生 川田 大登、1 回生 飯田 朱音  
美術教育専修 1 回生 東 瑞

#### 4. 活動の概要

奈良市立富雄公民館において、「大学生とワークショップ！SDGs」というテーマの下、環境問題を取り扱った楽しく学べるワークショップを 90 分程度行った。小学 1 年生から 6 年生が対象であった。グループワークや劇、クイズを用いるなどして、参加者が楽しめる工夫を行った。

#### 5. 参加学生の学び・感想

本企画で、私は主にアイスブレイキングと子どもたちのグループワークの進行をさせていただいた。全体的に子どもたちのワークショップへの取り組みを円滑にすることが出来た。一方でアイスブレイキングでは子どもたちの反応が想定よりも悪かったため、進行や事前準備をもう少し十分に出来たらよりよいものになっていたと感じたので次回以降の反省点としたい。(教育学専修 3 回生 木下 結等)

本企画では、一から企画を考えさせていただいた。ワークショップのテーマは環境についてで、クイズや劇などを通して環境について考えてもらった。本番は少しトラブルもあったが、子どもたちの積極的な姿勢のおかげで小学生にとっても大学生にとっても有意義な時間となったと思う。

(教育学専修 3 回生 宮木 舞)

私は本企画の全体的な進行を行った。これを通して特に強く感じたことは教具の重要性である。本企画では、導入として、握り寿司を模した知育玩具を使用した。それを使う前に、アイスブレイキングを行ったのだが、年齢層が幅広いことや兄弟での参加が多かったこともあり、緊張が解け切っていない子どもが多かった。しかし、その教具を出して、ランダムに振り分けた 3 人程度のグループでテーマについて考えさせると、夢中で考えてくれ、企画の進行がスムーズになった。これを含めて今回学んだことを今後の企画や活動に生かしたい。(国語教育専修 3 回生 川田 大登)

寿司の知育玩具を用いたことで、寿司のネタがなくなる原因が地球温暖化であることをより実感でき、地球温暖化を身近な問題であることを認識できていたと感じた。また未来を見据えて、一人ひとりが地球温暖化にどのように関係し、解決方法としてクイズや寸劇の場で主体的に考え、児童の指摘と気づきを表現する態度を見ることができてよかった。(国語教育専修 1 回生 飯田 朱音)

本企画は、SDGs 目標 13 番の「気候変動に具体的な対策を」に焦点を当てながら、劇やクイズを交えることによって、子どもたちの当事者意識を育むものであった。企画では子どもたちの主体性を垣間見ることができ、達成感のあるイベントになった。一方で、小学生に対する言葉選びへの配慮がいささか不十分な部分があった。この反省を生かし次の機会に活かしたいと思う。(美術教育専修 1 回生 東 瑞)